

# 平成30年度 東京都一斉帰宅抑制推進モデル企業 (12社)

(50音順)

企業名	主な取組
アスクル株式会社 (3,235人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロッカー周りの空きスペースを利用して備蓄品を分散保管</li> <li>○来客用非常持出袋の常備配置（商談スペースに50名分）</li> </ul>
医建エンジニアリング株式会社 (31人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社用車に防災グッズを備え付け、外出社員の安全を確保</li> <li>○多様性・衛生面を配慮した備蓄の実施</li> </ul>
鹿島建設株式会社 (7,686人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全社員が参加し、年4回の訓練を支店ごとに実施（「安否確認」「帰宅抑制対応訓練」など）</li> </ul>
佐川急便株式会社 (51,339人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自社インフラ配送を活用した備蓄品の分散配備</li> <li>○全女性社員に女性専用対策品・災害対策品を配備</li> </ul>
清水建設株式会社 (10,672人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本社内外の複数の倉庫に分散備蓄</li> <li>○年に2回、災害を想定した訓練を実施</li> </ul>
株式会社ディスコ (3,835人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通勤手当と住宅手当を見直し、会社近隣の居住を推進</li> <li>○従業員の自宅への水・食料の備蓄にインセンティブを付与</li> </ul>
凸版印刷株式会社 (10,150人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高層社屋の各偶数階に備蓄倉庫を分散配備</li> <li>○社内待機時のフロア自治マニュアル作成、訓練実施</li> </ul>
日清食品ホールディングス株式会社 (12,102人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○滞在環境向上に加え、災害時に業務が遂行できる環境も整備（全館停電時に就寝実験／発電、蓄電、照明等の増強）</li> </ul>
株式会社ヒューマックス (60人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実食会を開催し、社員が備蓄品を選定</li> <li>○外出中の社員をグループ企業にて受入れる体制を構築</li> </ul>
三谷産業株式会社 (519人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1週間分の水・食料を東京本社に加え、社員の住居にも配備</li> <li>○社員全員を対象に安否・初動対処訓練を年6回実施</li> </ul>
森ビル株式会社 (1,400人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震直後建物被災度推測システムの開発と導入</li> <li>○災害用井戸の自主設置（近隣への生活用水供給）</li> </ul>
株式会社横引シャッター (30人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社員の年齢や家族構成にカスタマイズした備蓄を実施（高齢者・乳幼児に対応した品目を準備）</li> </ul>

※社名の下の()は従業員数を表しています。